[**未来の「まったく痛くない治療」へのヒント**](https://blog.goo.ne.jp/isehakusandou/e/e665a695dd93d447e3350b1c49d7d193)

[2020-09-10 11:36:32](https://blog.goo.ne.jp/isehakusandou/e/e665a695dd93d447e3350b1c49d7d193) | [Weblog](https://blog.goo.ne.jp/isehakusandou/c/0ee3b3df44a1288130268d4c065c763a)

**体内に普段から存在する寄生虫と、  
新たな感染症からのウイルス増殖の体内循環の回路。  
両者の間に関係が無いか？　  
これを調べている時に思い出した過去記事が、  
  
今年の４月24日の過去記事「**[**腸内環境を制する者は、健康を制する可能性**](https://blog.goo.ne.jp/isehakusandou/e/0a6c70b5a8ec2931e42581d64213a195)**」において触れた、フランスの医療系サイトの論文に記載された内容です。  
（以下引用）  
  
「・　新型コロナウイルスで死亡した人は、腸内のビフィズス菌等が減っていたとあります。**

**新型コロナウイルスのACE2受容体（ウイルスの体内への入り口）は、腸細胞に結合する酵素であることは分かっています。  
（特に、海藻類の消化酵素と、ACE2受容体「日本人に特別多い」は関係しています）  
  
新型コロナウイルスで死亡した患者の腸内細菌は、  
・　ビフィズス菌と乳酸菌などの「善玉菌」の大幅な減少が見られた。  
・　コリネバクテリウムやルテニバクテリウムなどの炎症を起こす「悪玉菌」の日和見細菌の増加が明らかになった。  
・　このような悪玉菌は、肺の低酸素血症の重症化を起こすことが分かった。  
  
つまり、新型コロナウイルスは完治しても、  
・　腸内に新型コロナウイルスに感染した悪玉菌が少しでも残っているので、  
・　体調によって悪玉菌が再度の増殖をした時に、再び、新型コロナウイルスに再感染した状態を引き起こす。  
  
・　つまり、すべては、腸内細菌叢のバランスによって、  
・　新型コロナウイルスは、再発したり、治ったり、を繰り返す可能性が有る。  
（参考論文：**[**https://www.alternativesante.fr/coronavirus/covid-19-la-piste-du-microbiote-vers-un-nouveau-paradigme**](https://www.alternativesante.fr/coronavirus/covid-19-la-piste-du-microbiote-vers-un-nouveau-paradigme)**）」  
（引用以上）  
  
今年の4月の段階で、フランスの研究者により、新型コロナウイルスは、  
・　まるで体調が弱った時に出て来るヘルペスのように・・・（これは私の私見です）、  
  
・　腸内細菌のバランスが崩れた時に、  
・　再発したり、治ったり、を繰り返す可能性が有る。  
  
という指摘がされていました。  
おそらく、  
・　日本人の多くが1度は感染しているが、  
・　PCR検査にも出ない。  
・　無症状のままである。  
・　でも、潜伏したままの感染はしている可能性。  
という状態を推測します。  
  
これの可能性が、フランスの論文では、  
・　腸内細菌叢のバランスによって、左右される可能性。  
これが指摘されている訳です。  
  
え？　腸内細菌のバランスによって決まるの？　を考えた場合、  
・　腸と言えば、寄生虫の存在なのです。  
  
では、腸内や体内の「寄生虫」が、他の思いもしない重い病気と関係している事例は有るのか？  
研究はされているのか？  
これを調べますと、有るのです。  
  
・　国立研究開発法人日本医療研究開発機構  
（**[**https://www.amed.go.jp/news/release\_20151222-01.html**](https://www.amed.go.jp/news/release_20151222-01.html)**）  
抗寄生虫薬イベルメクチンが、肝内胆管がんの治療薬になりうる可能性について。  
  
・　科学研究費助成事業データベース  
（**[**https://kaken.nii.ac.jp/ja/report/KAKENHI-PROJECT-25670449/256704492014jisseki/**](https://kaken.nii.ac.jp/ja/report/KAKENHI-PROJECT-25670449/256704492014jisseki/)**）  
ぎょう虫駆虫薬「パモキサン錠」と、抗腫瘍効果の関係性について。  
  
ちなみに医師により処方される「抗寄生虫薬イベルメクチン」は、北里大学において新型コロナウイルスへの治験が、正式に行われている最中です。  
また、海外の医療機関から、  
・　抗寄生虫薬イベルメクチンは、新型コロナウイルスに対して有効の評価の報道がされています。  
  
つまり、寄生虫の駆除薬が、癌にも、腫瘍にも、新型コロナウイルスにも実際に可能性が研究されているわけです。  
これを見ますと、フランスの論文の信憑性が高いように、素人の私には思えます。  
  
はたして、寄生虫を退治すれば、癌にも影響するのか！？  
このような新たな視点について、より一層の研究をしてハッキリして欲しい意味の今日の記事です。  
病気について、斬新で革命的な要素がここに在ると、私は感じます。  
  
トランプ大統領にしても、有名な研究者から新型コロナウイルスの情報を得たとして、抗マラリア薬（重大な副作用あり）を飲まれていました。  
これも、考えて見れば蚊という虫からの感染に関する薬剤です。  
  
・　虫とウイルス感染症との関係。  
非常に興味深いものが有ります。  
  
私の夢のような未来の治療の夢想ですが、  
・　駆虫薬の成分と、特殊な善玉菌が入った液体を飲むだけという、まったく痛くない治療。  
こういう未来治療が、実現して欲しいものです。  
以上は、あくまでも、「こうなったら良いな！」という私のまだ根拠と実証の無い希望でした。夢想の希望です。**